滿洲日報

滿暦九月四日（みづのへ、たつ）
購讀代價表 一枚三錢 一ヶ月金六十錢 半ヶ年金三圓四十錢 一ヶ年金六圓五十錢 稅一切不申受 滿洲各地への郵送は郵…
廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢 特別廣告仝
發行所 營口南本街 滿洲日報社 電話 編輯室一一一 事務室二九
奉天大東門內 滿洲日報社支局 … 長春城內 滿洲日報社出張所

論說

滿洲と人格

滿洲は人間の品性を崇め、剛健なる意志を養ひ、而して精力的活動を爲すに適するや否や。輙ち之れを別言すれは、滿洲と人格、干係は奈何との問題に歸着す。

滿洲と人格！予輩をして三叫せしめよ。小なるか如くにして爾かも案外に大なるは思想倘しくは精神上に惹る無形の出來事也。開國進取の皇謨の上に立てる民衆は、大に伸びさる可からす、伸び而して延び、竟に其窮まる所の現實は、世界の到る處に我日東帝國の章旗を翻すに在りと。戰捷の日本は斯の如き景氣に盈てる聲を蒼生の間に相傳へて、國家主義者、帝國主義者を甫めとし政治家も、經世家も、學者も、宗教家も僉な悉く異口同音に絕叫したりき。

然りと雖も物平を得ざれば則ち鳴る。祇だ其の平を得んとするや甚だ難し。所謂此の海外發展熱なるものが昂騰したる以來、北米に於ては排日問題の固く結んで解けざるあり、或は加奈陀に於て日本勞働者の上陸拒絕問題は起れり、其の頻々たること恰かも踵を追ふか如し。就中比較的物議を生ぜざるは滿洲也。滿洲は何か故に物議を生ぜざる乎は今更噉々するの要無きも、兎に角、百尺竿頭脚を滿洲に伸ばさんと欲する者日々其數を加ふるは、滿洲に伸ぶるの最も安全なりと思辨するが故也。

滿洲は開放後に於ては全たく自由の天地となれり。伸ぶる者には好都合なりと雖も即ち試みに伸ぶる者の精神を訊ぬれは、曰く一攫千金の企畫耳、曰く現今の落魄手に唾して贖ひ得耳んと、壯言豪語比々咸な然り。彼等の脹中人格の在存無く、徒らに恬熙の途を選んで他人の頭を蹂躪し自から全ふするの計を運らすに汲々乎たる、甚た陋なりと言ふ可し。

人生の歸趣は其か人格の目的を貫くに在り。然るを斯かる危險極まる思想の傀儡が到る處に大々的活躍を唱へ、大々的發展と轉し、旺んに形式を衒ふて衆目の前に誇張し、有り、其誇張するや向ほ未た可也。而も其誇張一聲倐ち歇めば一顚して滅軻消魂となり、再轉して他人の前に項頸を屈する流人となる。蹙り、更らに三輾して華嚴の瀧、淺間か嶽に駛らんとす。否らされは空しく手を拱いて故山に敗殘の骸體を橫ふ。人格を尊重せず、個人を認めさるの罪科として、當然來るべき報酬は、夫れ事實が雄辨なる證人に非ずや。

去れば是より眞面目に活動せんと欲するものは、須らく人格を尊重し、人格主義を確持せざる可からず。人格を重んするは即ち平和を重んじ、德義を重んするに等しく生產事業に隨事する者特に最も此點に留意する所勿かる可からず。

之を要するに滿洲と人格の干係は、滿洲其物が輕跳浮薄なる贖々者流を產出し易き地質なれは、飽く迄も超然たる人格を墨守するに努め、苟くも紲れに軟化さるゝ縡を避くるに據りて昭明す可き也。（和田生）

善隣時事

▲內閣組織の發表期 淸國政府に於ては內閣組織を採用し以て其行政機關を統一し併せて各省の責任を明ならしめんとの議あり畧ぼ決定し居れるも總理大臣任命に就き袁張兩軍機の間其協定を纏る能はず其組織は早くも來月上旬に非ずば發表せられざるべしといふ

▲陸軍部の武備振興策 陸軍部各堂憲は頃日會議を開き武備振興の方法として左の六項を決議せり
一、軍事行政機關を再定すると
二、陸海軍制度を詳訂すると
三、軍事敎育方針を確定すると
四、軍人を優待し其地位を高むると
五、武備學堂を各省に設置すると
六、貴冑の子弟を外國軍隊に入營せしむると

▲新任公使の抗拒 哈爾賓海關道薩蔭圖氏が今回露國公使に榮任せるは不次の拔擢と云ふ所なるが右に關し露國は氏の地位低きに過ぐとて抗拒せられたるを以て外部左侍郞聯芳氏改めて露公使に任命を見るべしと上海通信は報じたり

▲英提督の溯江 漢口發電に據れば英國支那艦隊司令官ムーア中將は水雷艇チンシャ號にて去月二十八日宜昌に赴きたるが同地にてウイッチン號に乘り換へ重慶に赴きたりと

▲廣東海賊の來襲 南海々賊の一群廣東省高州肇金局に來襲し掠奪を恣にしたるが爲め商戶は皆な市を罷め戶を閉ぢて其非常に備へたるに賊は遂に全市に火を放ち盛に劫掠を行ひ市人命を殞する者無數人心洶々たりとの電報上海に達したる爲め直に軍艦を急行せしめ勦討に從事せしめたりと尙ほ近來南海地方形勢不穩にして廣西南寧地方又騷擾を極めをりと

▲モリソン博士の歸國 駐北京倫敦タイムス通信員モリソン博士は三日北京發歸國の途に上りたるが道を西比利亞鐵道に取り奉天より米國公使ロックヒル氏と同道したり倫敦滯在は約二週間なりといふ

營口に於ける淸國金融機關（一）

營口の淸國金融機關などゝ大げさな題目を掲げたが是れは誠に誇張した言で其實は當地金融機關に就て日淸知名の士より折々承はつた事を後と前き綴り合はして書きならべたのみに過ぎない。勿論正確なるや否やに就ては保證する事は出來ないが、併し大体に於て著るしき誤謬ないことは確かである。去り乍ら若し此間に誤あらば遠慮なく讀者諸彥の示敎を蒙りたい（一記者）

營口の金融機關を述ふる前に現今支那に於ける金融機關に二大種別あるとを云はねばならぬ、即ち一は歐式金融機關にして他は支那固有の金融機關である

歐式金融機關は如何にして發達せるかと云ふに、遠き原因は先つ措いて近き原因となるものは彼の阿片戰爭である、世界は阿片戰爭を以て英國の歷史に千載拭ふべからさる汚點を殘したものと評したか、淸國の開發に就きては偉大なる恩寵を蒙むらしめたもので、從來鎖國主義の下に自足經濟を行ひつゝありし支那帝國は、各地を開放して互市を許した結果、各開港地は俄かに現世的世界の風潮に浴するとゝなり、各國との通商は日を追ふて盛大に赴くとゝなつた其結果、各開港地の金融機關に一大變動を來し、從來の鎖國時代の金融機關にては到底外國貿易の要路に當るとか出來ないので遂に各開港地に於て支那人も外國人も歐式金融機關を設くるとゝなつた、是れ即ち支那の金融機關に歐式なるものゝ存する所以である、併し歐式金融機關に就ては多くの讀者の知らるゝ通りであるから余は玆に之を述べない、余か此れより書いて見やうと思ふのは、支那固有の金融機關なる銀號、銀爐、票荘、當舖等に就てである

次きに支那固有の金融機關は如何なる發達を遂けたるものかに就て其大略を述へねばならぬ。元來此固有の金融機關は鎖國時代自足經濟主義の產物なので支那の經濟史と大なる關係を有して居るものである、今少しく之れを述へやうと思ふ

慧眼なる支那觀察者は現今支那の經濟狀態を評して都府經濟時代即ち歐洲中古の「ギルドシステム」時代なりと云ふて居るが之れ強ち誤れる觀察てはなからうと思ふ何となれは現時支那經濟界に著しき現象を呈しつゝあるものはかの會館、公所の制度である而して會館公所なるものか如何なる發達原因を有せるかに就ては是非知らねばならぬ事であるが今は之れを述へて居る時てはない先つ歐洲中古の「ギルドシステム」及び我日本德川氏時代の仲間組合の發達原因を綜合的に觀察したならば會館公所の發達原因に近似せるものを見出すとか出來るだらうと思ふ兎に角會館も公所も其內容的性質に於ては玆に區別すべきものはないが只た會館は同鄉組合にして公所は同業組合なる傾向のないでもない併しながら支那にては銀行家は山西人綢緞商は江蘇人と云ふやうに同鄉者は均しく同業者たる面白き傾向を有するものなれは往々例外があるけれとも概して此の如き關係であると思へは間違はない故に會館公所は其間に區別を設くる事か不可能なとてある。

滿洲百人物

（九）橫山壯次郎

名門名士を出す、奉天農事試驗所技師橫山壯次郎君の如き即ち是。君は亡志士正太郎氏の遺子にして、前文相森子爵に於て叔姪たり。父は時事に憤慨して集議院門前に於て割腹し、叔父亦不幸兇徒の毒手に斃る。君は名門の出と雖も、其家庭は寧ろ黯慘たり艱險たり、君此間に人と爲り、其性格を陶冶し、鍛鍊し、渾然玉の如きの美質を致し、獻身的に出づる者、父祖の感化に負ふ最も多しと爲す。

君か其職とする所に忠實なる、殆ど君が現在は固より顯達の地位に非ず、父祖の盛名に比すれは、寧ろ父祖を辱しむる者、而も人類の最崇高目的は、其職分に殉するに在りとする、則ち君の如きは、其職分の爲めに職分を果さんとしつゝある者、何ぞ必ずしも顯と達とを問はんや。憶ふに目下邦人の奉天官場に雇聘せらるゝ者、其多くは俸祿の爲めにし、毫も職務の爲めに盡さんとする者ある無し、而して君獨り營々又役々として其職務の爲めに勤勞し、絕えて虛榮を願はず、唯だ事效の之れ擧らんとを期す。故に其管する所の農事試驗場、開場未だ幾くもあらず、布置已に整然、成績日に著はれ、深く淸國官憲の信賴を博せるもの、實に其獻身的性格の致す所に之れ由らずんばあらず。

聞く君の農場を經始する、肥めて華を去り實を求め、有ゆる下手の新事業先づ其效果を收め、以て範を示し、然る後布置に及ぶ、淸人の悅服する所以と、贊實の士に非ずんば能はざる也。

偉人の愛讀書（中）

グライプ卿は、其の讀破したるいかなる書籍よりも「魯敏遜航海記」が第一なりと云ひき。

フランクリンは、政治經濟財政に關する書籍は、目に觸るゝもの殆んと目を通さゞるはなかりき。

ミケール、アンゼロは、ダ・ビットの聖歌及びモセスの書を最も愛讀しき。

バッチは大讀書家にあらざりき、然れども滑稽詼謔の書を好めり。

ジョルジ三世は祈禱と聖書の外何書をも讀まざりき。

スキフトは拉丁諷刺家の著作を研究し頻りに其の言語と文體に模倣せり。

ハイネは詩歌の外、讀むことなし、然れども之を讀むや非常の細心を以てせりき。

ウォルズ、ウォルズはバーンスの詩を好みたりしも猶ほバーンスの詩は餘りに粗硬にして不作法なることを云ひき。

ブルワー、リットン卿はホーレースの著作を好み、常にポケットの其中に其小冊子を携へたりき。

英國のチャーレス二世は、チョーサーを好み、之を以て古今の大詩人なりとなしき

▲日報文壇▼

聲書會席上。步浩々吟翁湑礎。余見吟翁双鬢未絲。然原詩有西風吹鬢絲之句。末句故及。　平岡棠雨

雨中誰題中秋詩。客有奇才詩亦奇。抹去雲煙驚四座。豪懷不似成鬢絲。

浩々吟翁曰。棠雨久在米國。精通鐵路。爲人淸閑優雅。多趣多技。習俳句。未半年而至其妙境矣。又能漢詩。格調蒼古。直逼唐代。可謂才之人也。此詩不拘平灰之處。却見調遠意長。匪夷所思。

寄玉　しげを

なか〳〵に全き瓦とあらむより玉と碎けて散らむ勝れり

みすまるの八坂の玉を心にて亞細亞の東てらし渡らむ

高粱の不作を吹くやあきの風　高樓
雨の月逢はぬ戀とも申すへき　十
勝角力に羽織投げ出す男かな　醉雨
秋暑く柳も風のなき日かな　梅外
醉眼忽さめて薄着の夜寒哉　苓山
朝顏を見ませと稚兒の使かな　最江
蜩に晝の寐ざめや手のしびれ　孤峯
湯殿の火うつろふ垣や花木槿　風生
墓詣ともにす從弟なる男　野梅

快男兒

第八十六回　渡邊默禪

話しかはつて其翌夜、冬の雨のしと〳〵と降り來り、磨墨の闇きに吼る北風、火桶に蹲まりても、粟立つ肌の蔓も、凍るばかりの夜半頃、下谷徒士町なる棟庵宅の塀を越へて、邸內に忍入りたる二人の賊、裏手の土藏近くに立寄りて、通ひ廊下の高窓を、切破らんと試みぬ　○「オイ兄貴どうだ、中の模樣は、もう大丈夫か　△「ウム、今が今丁度寢込んだばつかりだと見へる、ウンともスンとも音がしねへ、此うなりやア此方の世界よ、心配するな」と座敷と土藏との中央なる、廊下外の廂合に立ちたる賊、一人は我が肩を足代となして、相手の男を上に載せ、足首をしつかり押へて、板壁へ身を寄せかゝれば、一人は其肩を踏まへながら、伸び上りて板壁の上なる、高窓の格子へ捉まり、耳を着けて中の樣子を聞き澄ましつゝ、四邊を忍ぶ小聲にて、互ひに囁き合へり　○「そいつア旨へ、そこで兄貴への相談だが、愈よ中へ忍込んだ跡の手配りはどんな事にしやう、乃公ア此の場所は始めてだから、さつぱり勝手が知れねえんだ　△「ムゝ、おめえは晝間も話した通り、棟庵を顏が通つていねへから、失敗をふんだ處で、發覺れる氣遣へはありやアしねへ、棟庵の居間まで忍び込んで、現金をとつて來なせへ、もし現金の隱匿場が分らなかつたら、何んでもかまやアしねえ、目星しい物品を攫つて來るさ　○「よし來た、して兄貴は　△『私ア此の土藏へ忍込んで、何んでもすつかりと脊負ひ出してやるつもりよ、事によつたら、會津で强盜いて來やアがつた現金は、此の中に鼾をかいているかも知れねンだ、何方にしても、見込の狂ふやうな事アねへから、しつかり行つて呉れ』と用意の細齒の鋸、寸に立たぬ巾の頗る銳利なるを格子に入れ、ズン〳〵と挽くにつれて何んの音さへせず、骨はばら〳〵に切落されて、忽ち三尺ばかり〇穴を穿ち得たり　△「しめた、もういゝ、音おめへ其處の庭へ這入つて待ちな、今出入口を拵へるから」とヒラリ身を躍らすと見る間に早くも其穴に姿を沒したり、かくして先づ廊下先に立入りたる後、右の方なる座敷の椽先に廻り雨戶一枚を靜かに開けて相棒の音なる者を招き　△「サア這入んな、此處へ來がけに、チラと勝手の方を覗いて來たが、イヤモウ他愛もなく寢て居やアがらア、家內はやつぱり私が睨んだ通り、代診と藥を盛る青二才が三疋、それに山出しのお炊どんと、仲居が一人よ、權助は離れて居るもんと見へて、姿が見當らねへや　○「フンそうか、棟庵は　△「さア何處が居間だか、見當が付かねへが、庭の方はホラ灯火のさしている離れが見へるだろう、大方彼處かも知れねへ行つて見な　○「合點だ、おやア兄貴、一と渡り瀨踏みをして來るよ」と拔足差足左右へ立別れしが、土藏に向ひし賊は、アンコウに火を點じ、（靑竹を寸筒切りにして、一方の側面をアンコウの口形に開き、底に釘を打つけ、蠟燭を立て、上には針金をつるして、取つ手となせそ、鐙燈の代用にして、携帶に便なり、又影に一つ小さき穴を穿ち、此處へ口をつけて、徐ろに吹く時は、蠟燭の火の炎斜めに走つて、一點に燈力を集中す、その火力よく板を遮さへ鐵を鑄かすとぞ）土藏の扉の影に寄つて、懷より一本の細き錐を出し錠前の穴に突入れて、暫らく捻廻すと見る間に、ピンと音して錠は外れぬ、得たりと靜かに扉を開き土藏の中へ立入つて、五六歩ばかり進むや否、蹲まりたる火影に何物の姿を映しけん、アツと驚いて覺へず後へだぢ〳〵。

△△△生

或る職人體の男二人風呂に來る　甲「ヤア今日はエライ塵ぢや、頸一面に斯うだと、ゲルリと腋の邊を撫で廻はして、眞黑の手拭を乙に差し向ける　乙「一サ滿洲の風は又格別だ、耳の中まで斯うだと、又爪先で耳の垢をコボリさをこして、互ひに顏見せて笑ふ、最前から傍で此樣子を見つゝありけん禿頭の一老人、尤とも氣に差出口なして御職業が何んですから國分エロごあすよ、滿洲に耳の垢取などいふ營業があるのが、可笑しいと思つて居りましたが實際必要ですよ、塵か斯う多くちや……ハアハハ……笑ひ聲が湯氣に相和して湯槽から溢れて來る。

我紙は滿洲商業の唯一機關を以て任じ記事精確趣味豐富在滿邦民及び滿洲の事情を知らんと欲する者は一日も我紙を閑却すべからず

時刻表 線 大石橋 遼陽 蘇家屯 長春 寬城子 奉天 … 撫順 … 大連 金州 南關嶺 … 千金寨 … 上り 下り …

倫敦電報

●王位覬覦者の保護（七日特發）

在タンジール、ポスト新聞通信員の報する所に據れば摩洛哥國王位の覬覦者レスリーは曩きに拘擒し置きたる英國人マックリーン氏及其家族に對する償金を三十万圓迄低減し英國總督は摩洛哥國王の異日之れを辦償すべしとの保證を得て一時該金額を立換えマックリーン氏及其家族を英國官憲の保護の下に引取ることゝなるへしと云ふ

●仲裁委員會（八日特發）

海牙に於ける仲裁委員會は去る土曜日に反覆討議の末六票に對する三十票の多數を以て總會の撰定せる特種問題の義務的仲裁主義を可決せり反對側は獨乙、墺土利、ルーマニャ、希臘、土耳古及清國にして日本及他の三ケ國は該決議に與からざりき

●同別報（全上）

仲裁委員會は義務的仲裁案中數ケの項目を削除したる上九票に對する三十一票の多數を以て之れを可決せり反對の少數側は本日既電の六國の外に他の三國を加ふ露國は多くの保留を存して該案に贊成し日本及伊多利兩國は決議に與らず

●棉花輸出妨止（全上）

米國ニユー、オルレアンスに於ける棉花職工協會の會員八千名は一日の仕上げ高に關して傭主と意見を異にせるが爲めに同盟罷業を爲し全然棉花の輸出を妨止するに至れり

●タフト卿來遊用件（全上）

在華盛頓ポスト新聞通信員は確かなる筋より聞得たりとて陸軍卿タフト氏の日本に立寄りたる理由は主として日本政府が全國勞働者の米國渡航を制止するにあらざれば次期の米國議會に日本勞働者排斥案の提出を見るに至るべきことを日本政府に通知するにありし旨を報道せり

大連電報

●輸入木材の調査

九日午後一時大連支社特電　青森大林區署橋本山林技師當地に滯在し目下輸入木材の調査中

●コレラ又々發生

昨夜更に一名の虎列剌發生し合計十五名となる而して七名は漁船中に發生したる者にて陸上發生患者四名も同しく漁業に關係あるものなり

雜報

●銀價高低權利に就て

……安東の銀相場立會……

安東に於ける銀價は公議會に於て日々定めらるゝが變動の最も甚しき日には銀相場の立會ひを行ふこと三回の多きに及ぶことあり其第一回は大概午前六七時頃にして馬蹄銀の賣買を行はんとするものは公議會に集會して相場を決定す然るにまた日本人に在りては公議會に出席し馬蹄銀の取引きを試むる者なきを以て彼等は銀價高低の權利を掌握し爲めに邦人の蒙むる損害尠少ならず今其一般を示せば毎年上流より柞蠶或は大豆豆粕等出荷せらるゝに及べば日々少許づゝ銀價を變動せしめ邦人が賣買の約定に從ひ代金を支拂ふに及び彼等は金銀票と馬蹄銀との差を攫得し取引の終れる頃を見計らひて一時に馬蹄銀の價格を復舊するを常とす故に例年結氷期及び解氷期に向ふごとに眞正なる賣買以外に於て彼等に貪ぼらるゝ利益尠しとせざるなり而かも右は安東に於ける多額なる物品賣買の場合を云ふのみ此の以外に於て邦人は常に相場の影響を蒙り清商の手段に乘せられつゝあるも馬蹄銀の高低一に彼等の手中に握られ居るを以て亦如何んともすへからず左れは該相場を邦人の手に收めんとの計畫は久しく一部の活眼者によりて研究せられつゝあるも安東に於て流通せる馬蹄銀及或る場合に於て芝罘より輸入せらるゝ馬蹄銀とを合計すれは實に三十万兩以上なるを以て薄資を以ては亦如何んともすへからず況んや清商等か團結して保ち居る相場を切り崩すには單に三十万兩を準備するのみにては未だ足れりとせず三四回は爲に數千兩を犧牲とするの覺悟を要するを以て進んて馬蹄銀の相場を清商と爭はんとする者無き次第なるか若し一二回の損失を忍ぶだけの覺悟だにあらは容易に權能を邦人の手中に歸せしめ得べしと某氏は語れり一說として茲に掲ぐ

●莫大小の海外輸出盛

日本に於る莫大小工業は近時著るしく進歩し南洋諸島、印度地方は勿論清韓地方に特に販路を擴張し其製產額年約五百万圓に上るに至りたるが昨今は當業者の製品に對する注意行屆けるが爲め益々好評を博し獨乙伊太利の製品と市場に拮抗し較もすれは之を驅逐せんとするの盛況を呈せりと而して我か滿洲より西比利亞方面への輸出は主として在留邦人の需要に係るものなれば在留邦人の數にして增加し行くにあらされば迅速なる需要の增加を見るに難かるべしと雖も製品によりては清露兩國民の需要を得ることも滿更望みなきにあらさるべしと

●鐵嶺新豆の槪況

本年の大豆作は槪して七分作の狀態にあるは屢々報導せし處なりしが此地附近も亦同一にて其收穫に着手したるは九月八日の白露節を以てし出荷は同月廿日三井物產會社が馬絳溝より約卅石を輸送したるを嚆矢とせり昨今の相場は日に々々高値を唱ふるのみにて昨日の市場相場は洋錢十元八十錢台にて尙は益々騰貴の傾向あり大物の取引は過日三井が一石九元八十錢十一月廿日渡にて一萬石の商談成立したる外未だ思はしき取引は開始されずこゝ暫らくは各店形勢觀望の姿に在るべし尙昨年の收穫高は約三十五万石にして豆粕製造に消費したるもの約十二万石の由なるが本年は昨年に比してやゝ好成績ならんとの一般の豫想なり

●鐵嶺最近の戶數及人口

警務署の調査に係る最近の入口表を見れば領事館及都督府戶數六百八十四あり而して其領事館管轄內に於ける重なる業別戶數を掲ぐれば銀行一

唱に係る江蘇安徽兩省饑饉地に送るへき義捐金の募集高は金三十三圓三十錢錄百八

●昨今の新豆市場

陰曆九月に入り新豆の時節となりてより昨今入津する新豆は漸く多く市場漸く人氣付きたれとも價格は依然高騰し瀛車によりて來るものは一石九兩六匁五、船によりて來るものは九兩二匁六なり水陸によりて此差あるは水運は水分を帶ぶるに原因する由なり尙ほ豆餅豆油の市場は至りて景氣立たず昨今豆餅は一塊一兩豆油は百斤八兩三南清への輸出は尙ほ皆無なり從て各油坊も多少手控へする樣にて一日の製出高例年の半數なり（太古元記調）

●石炭と石油の比較效力

瀛船の航海費目中最も大部分を占むるものは焚料石炭にして航海費總高に對し荷物船に於ては二割五分乃至三割郵便定期船に於ては凡そ四割二分又太西洋を往來する高速巨大の客船に在りては實に四割九分の高率を占むると云ふ左れば近來瀛船の焚料として石炭の代りに石油（重油）を使用すること大いに流行するに至りたるが今某氏の調査によれば石油は石炭に對して（一）壓槽水槽內に積入れ得ること（二）積入れ時間を大に省き得ること（三）容積を要せざるにより積荷の數量を增し得ること（四）全然石炭夫（石炭を繰換へ又は手慣らしする）を要せざると火夫の數を三分の二減ずべきにより大に經費を省き得る等の重な利益ありとのことなり

●仁川金融槪況

當港本月始の金融は先月末より相不變緩慢にして何れの銀行も貸出非常に減少せる由なるが其の原因は盆以來輸入せる雜貨品は極めて不捌けにして今日の所にては背追込みの狀態にて全く商況不振に由るものなりと然れども銀行側にては以上の如く金融緩慢なれども遊金のあると云ふ程にもあらざれば金利の引下げを見る迄にも至らず（社員特報）

●大連行輸出韓米荷爲替高

韓國諸港より大連へ輸出せる米穀荷爲替高（三月以降）は左の如し

三月	三万四千圓	四月	二万千圓
五月	三万圓	六月	五万千圓
七月	六万圓	八月	七万三千圓
九月	七万圓		

三月には僅かに三万四千圓なりしに九月に至りて其倍額即ち七万圓に達せしを見るに今後輸出韓米の前途は實に有望なりといふべし

●戰役中の古毛布處分

去る三十七八年戰役時代に於て全國に檄して募集したる防寒用の古毛布は殘數積て山を爲し當局者も之が處分に種々考案中の由なりしか今回右の古毛布を日清兩國の窮民に頒與すると爲り都督府にては南滿沿線の各驛に通牒して之が分配方を依賴したる由にて鐵嶺一驛丈にても二万四千枚の分與を受けたりと云ふ

●イルクーツクより

〇〇〇〇〇〇

拜啓、當地方の昨今は別に珍聞も無之たゞ不景氣なる事丈けは西比利亞全体を通じて同一にて候、トムスク邊より來れる朝鮮人の談に據れば全地も甚だ不景氣の由にて候▲又最近報によればモスコウ邊は小銀行續々破產し經濟界を攪亂せりとの事に御座候、其影響を受けてか當地商店にて毎月損失なき者は一戶も無之此二個月內に當地一等街路に開店せし者五六有之候へ共家賃法外に高く（間口九尺奥行二間半位）の商店にて一箇月百八十圓より二百圓と申居り到底收支相償ひ不申候且一年の內日曜日の外に百四日の祭日有之合計休業日は百五十六日にて開店の日數は僅かに二百六日に御座候▲當地に駐屯の陸軍將校連中は毎日野營地より歸來婦人を携へ馬車にて市街を散步する樣如何にも閑散に觀られ候▲當地には猶太人最も多く大商店及理髮店の如きは全部猶太人にて勞働に從事する婦女子は純粹の露西亞人多く候▲アムール鐵道工事も開始せる爲め目下見習技手を八十里（八十吉米）毎に三名の割合にて配置し居申候工事も五年計畫の由大々的工事なる可く被存申候▲ニージテウーヂンスク及ノーウエゴールドにては目下虎列剌病大に流行致居候由聞及び候▲當地方に輸入せらるゝ日本商品の重なる者は絹ヘンカチありはん、象牙細工等にして頗る安價に販賣致居候、だん茶の如きは稅關倉庫のみにて約八百万圓の荷物ある由九州製茶會社の出張員は申居候（五日發）

●浦鹽價値に就て

中橋氏の西比利亞視察談は前號に掲げしが尙氏の浦鹽に對する意見を聞くに左の如し

予の視る處に據れば浦鹽の形勢も現在は甚だ良好といふ能はず其出貨として船商會社及び露國東亞瀛船等は僅少の大豆及び豆粕を得るに過ぎずして閑散を極め居れり幸にして旅客の多數なるが故に相應の營業を繼續するを得るに過ぎず而して浦鹽の將來は如何といふに露國政府が其施政方針を一變して立脚地を商工業に置くに至らざれば到底今日の狀態より挽回する能はざるべし若し露國政府の態度一變する時機あるものとせばこれ浦鹽の形勢一變して驚くべき發達をなす時機とならざるべからず云々

●蒙古の農牧に就て

專門家の調査せる所によれば農事を經營すべき地點は老哈河畔一帶の地にして平地三万町步あるも施肥不十分なる爲め地力乏しく其他內地には有望なる未耕地を發見せず且つ統御不完全にして生命財產の安固充分ならざる爲め農作物の盜難に遭ふこと頗る多く今後一般制度の上に大改良を加ふるにあらざれば農事は殆んど發達の餘地なし然れども靑草繁茂せる地點頗る多く殊に西橋頭より馬郡宮附近に至る約二万町步及び黃家枝子附近一帶高地大八粱より西橋頭に至る約三万町步の高地の如きは頗る良好の牧草に富み今後日本人の同業を經營せんとするには至適の地區なりといふ

●大石橋待合時間の短縮

從來午后六時大連發の長春行及午前七時四十分長春發大連行列車に乘車する營口行旅客は大石橋に於て四時間乃至六時間半を待合すの不便ありしも本十日より大石橋午前四時二十分發營口午前五時着列車を運轉し待合せ時間を短縮することゝなれり然れとも尙長春午前七時四十分發の列車は大石橋に於て約三時間を待合はせさるべからずと云ふ

●京奉鐵道發着時間の改正

京奉鐵道の中關外線即ち奉天と山海關との間の瀛車發着時間は本十日より左の如く改正せられたり

	午前 時 分		午後 時 分
奉天發	三、五〇	山海關着	六、一三
仝（急行）	七、四〇	仝	七、一六
仝	一〇、五五	錦州着	八、五一
山海關發	四、〇〇	奉天着	七、四〇
仝（急行）	七、二五	仝	六、五五
錦州發	四、四五	仝	三、〇三

●營口停車場統計

本月一日より一昨九日に至る同驛統計を擧ぐれば降車人員一万三千六百九十四人乘車人員一万零五百三十八人客車收入二万六千二百九十四圓八十四錢發送貨物噸數一万零七百七十九噸貨車收入六万六千二百十二圓十五錢にして總收入九万二千五百零六圓九十九錢なりといふ

●客荷運賃拂戾に就て

滿鐵運輸部は一昨日附を以て各驛其係へ向け運賃拂戾に關し小荷物取扱心得に依るの外尙左記各項に依り取扱ふへき旨示達したり

一、乘車劵面着驛より乘越さしめたるものに對しては不足賃を徵せす且其者の請求ありたるときは乘車劵面着驛まで無賃乘車せしむへし

一、消毒又は隔離の爲め乘車劵通用期間を經過するに至りたるものは其儘乘車せしめ驛長に於て乘車劵裏面に其旨記載捺印すへし

一、前途の乘車を見合せたる旅客に對しては乘車劵面運賃より既乘區間の運賃を控除したる殘額を拂戾すへし此場合に於て旅客より特に返乘の請求ありたるときは乘車劵面發驛（途中驛に下車したるものは其最近下車驛）に直通復歸するものに限り無賃乘車せしむへし

●割戾託送代理人の承認

滿鐵會社にては貨物運賃割戾規程に依り其後運賃割戾及託送代理人たることを承認したるもの左の如し

大連驛	福生公司	福永健二
營口驛	伊東公司	伊東幸藏
大連驛	仝託送代理人	勝木多一
蓋平驛	仝	佐々木哲哉
奉大驛	仝	大久保次郎
開原驛	仝	高橋麟太郎
孟家屯驛	仝	內藤政夫
大亜驛	滿洲運輸公司	青木逢四郎
營口驛	仝託送代理人	吉田源次郎
遼陽驛	仝	岡田郡之助
奉天驛	仝	野田十二
公主嶺驛	仝	濱崎梅造
孟家屯	仝	吉田豐
鞍山站驛	狩野運送店託送代理人	秋吉萬作
營口驛	滿洲昌圖株式會社支店	石倉清
昌圖驛	川鐵公司	川本清之亟
長春驛	仝託送代理人	久保松次
公主嶺驛	仝	姬野幸作
四平街驛	仝	森原陽三
雙廟子	仝	金澤民次郎
開原驛	仝	古賀清次
鐵嶺驛	仝	盛田際衛
奉天驛	仝	花田太郎
營口驛	仝	吉田源次郎

手柄山（西昇　左倉川（鳴戶岩　有知山（琴浦　朝日濱（大林　大碇（小綠　高根松（い

●小包郵便規則改正

本月より清韓小包郵便規則中左の通り改正實施されたり

一、第六條乃至第八條を左の通り改む

第六條　清國又は韓國發日本宛の小包郵便物にして關稅又は內國稅を課すべきものは之を郵便局所に留置き到着通知書を名宛人に交附す名宛人は通知書の日附より十五日內に稅金を納附し其郵便物を受取ることを得

第七條　關稅の賦課に關する稅關長の處分に對し異議の申立をなすものは同時に其事由を關係郵便局所に申出づべし其異議の判定ある時は直に其書類を該郵便局所に提示すべし關稅又は內國稅の賦課に關し大藏大臣に訴願したる場合及び其訴願の裁決あるたる時亦同じ

第七條　前條の場合において郵便物留置期限の經過は郵便局所への申出より異議の判定の確定又は訴願の裁決まで之を停止す

一、第十條及第十三條第一項中三十日以內とあるを十五日に改む

●鐵嶺郵便支局の新築

是れまで鐵嶺東門外にありたる同支局は追々邦人の增加するにつれ郵便物も多きを加へ事務室も亦た隨て狹隘にして取扱上頗る不便を感じ居たりけるが折柄田中局長の盡力により同支局を西門外に新築することに決定し愈々去る八日より起工せりと

●橋本鎭守府長官の歸府期

旅順海軍鎭守府司令長官橋本中將は過般來長官會議列席の爲め上京中の處去る九日長崎發の薩摩丸にて來る十三日歸府せらるゝ豫定なり

●鮫島師團長の歸遼

駐屯軍交代に就き賜暇を得て北京へ赴きし鮫嶋將軍は日清官民の盛んなる歡迎を受け兩宮に謁見せられたるに久しく滿洲守備の任に在りて地方の安寧を保持せるは一に卿の功にありと云ふ意の優渥なる聖旨あり將軍には頭等第三雙龍寶星、隨員にも夫々賞賜あり去る四日歸遼せられたりと

●祠尾參謀長の巡視

仝參謀長は一昨日旅順發安奉沿線守備隊巡視の途に就けるが十六日頃歸順の豫定なりと

●總領事送迎會準備

加藤新任總領事の來奉は多分來る二十二日の筈なるが夙に當地有志者に依りて發起されたる送迎會の準備は既に整了し新任總領事の來着を俟ち居れりといふ

●參謀總辦長春行

新任東三省參謀總辦田中玉氏は督撫の命により要務を帶びて數日前長春に出張せりと云ふ

●村上奉天警務署長の通牒

清國保定府軍官學堂（陸軍大學）職員約十名學生約七十名小使二十名は寺西步兵少佐中村工兵大尉守永步兵大尉及通譯官中島比多吉氏誘導の下に左記日割の通り戰場等見學の爲め出張に付到着の上は相當便宜の取計ありたき旨奉天警務署長村上警視より各地署長へ通牒せりと

六日（山海關）七日（奉天）八日（瀛車中）九、十日（大連）十一、十二、十三日（旅順）十四日（金州）十五、十六日（遼陽）十七、十八日（奉天）十九日（山海關）

●稅所司令官の上京

旅順要塞司令官稅所少將は明十一日午前七時旅順驛發 上京の筈にて秋季大演習に陪觀の爲なりと

□一番澤山賣れる賣藥

支那で一番能く賣れる賣藥は清快丸、大學目藥、ヘブリン丸、寶丹、清錡水である、其外には長江沿岸及び北清の一部では東亞公司博士の賣藥が評判がよい、而して賣藥商人は診察治療のマネをして藥を賣りつけるから或意味に於ては賣醫行商である

筆魔墨魔

或西洋の動物學者は蟬の雄が雌の愛情を惹附ける爲には美妙なる歌をうたふて雌の情緒を纏綿たらしむるものだと書いたのを何處かで見たが人間だつて異つたことはあるまい▲婦人といふ可愛いたふとい而して一種の魔力を持つてる者か此世界に居ればこそ雲突く荒し雄も和くけれど、若し世に女なくば總ての男はむくつけく猛き獸に似たりけん▲東洋の畫家が天津人の面影を女の姿にまねびえがくもむべ、西洋の男子がオウーマン、ラブリーウマーン、と叫ぶも尤千万▲滿洲へ遠來の縉紳連が若し內地であつたらコンマ以下の美人？に夢幻となるのは人間の至情である、拒ぐべからさる自然の作用である、水電の天春クン、正隆の深水クンなどは即ち人間の至情を淡泊に發揮してるのである▲凡そ遊ぶには男らしく遊ばなくてはウソだ、維新革命前幕府の老中であつた間部下總守は或席で大名方に、チト藝者幇間を招ぎ御愉快召されと放言して滿座の大小名を驚倒したといふことだ▲滿鐵の是公クン、犬塚クン、田中クン正金の小田切クン之等は公然黨の守本尊とすべき色剛であるが、小泥棒のやうに狐鼠々々してスベタ女の尻を追つかけて獨りで悦に入るなんかは眞に愚の極だからおよしなサイと秘密黨にチョイと勸告して置かう

公私往來

▲永岡堯（關東都督府農事試驗所長）一昨晩奉天より來營清林館に投宿

▲西田守雄（南滿鐵道會社員）昨朝遼陽より仝上

▲荒尾龍太郎（南滿鐵道會社大石橋出張員）一昨晩大石橋より仝上

▲竹越與三郎（代議士）旅順より來營旭ホテルに投宿

▲津田源吾（土木受負業）大連より仝上

▲吉住壽平（熊本縣先出視察員）遼陽より仝上

◎樓の大勉強 は二等客の知り給はさる所なり資格に遊ぶてふ高尙の粹士にあ

天氣豫報

自八日午後六時至九日午後六時

營口地方　南の風はれ

賣行き頗る旺盛なるを以て本月七日三江公所に相會して値上げ策を講したる由なれば今後當地支那絹布は多少騰貴すべしと云ふ

女五十六戸數九十四あり又領事館管內の邦人は男千二百二十五名女九百廿三名戸數五百九十前者を合して總計二千四百八十三名

四、料理店七十三、官吏廿四等にて向後も幾分宛か增加の傾向ありと云ふ

●遼陽の義捐募集高　遼陽速水副領事の主

特別廣告

郵便局移轉

當局及小包分室共來ル十一日正午十二時ヲ以テ永世街舊郵便局官舍跡（舊巡警總局向フ角現在當局裏門ヨリ約二丁半西）ニ移轉ス

明治四十年十月九日

牛莊郵便局

講談 假名太閤記

（第七十九席）　松林伯知口演

秀吉公は淀殿の言葉を聞き給ひて　秀「さうぢやらう〳〵、何も申すには及ばぬ、秀次の事は尚ほ能く調べて相當の處置を致すから余に任して置け、夫れに付て其方に申置くは朝鮮の事ぢや、戰も大分捗取つて參つたし、どうしても秀吉此大阪に安閑として居る譯にはならぬ、依つて今一度名護屋まで赴き、次第に依らば京城まで乘込まんかと決心致したが……」言掛けると淀殿は皆まで聞かず　淀「此は何を御意遊ばします、其樣な所へ上樣が往らせられたら何と致しませう、淀は此儘相果てまする、和子樣を如何遊ばします、上樣には此淀を不憫とは思召さぬか、和子樣は可愛うは思召さぬか、どうぞ左樣な事は御止め遊ばして……」と泣き口説かれて、又秀吉公ギアフンと來た　秀「やア夫れなら當分は參らぬ、まア〳〵心配するな」と愛て秀吉公の御心がガラリと變つて一旦決心した出陣は御止め、而して新關白秀次公の行ひを探るべしと云ふことになつた、斯うなるともう万事淀殿の思ふ壺、今は公然と掛りの者の出來て新關白の行狀を段々と探るのだから、新關白の身は愈々危うくなつて來た其內に秀吉公は伏見の新城へ御出になり此所に暫く御滯在、此方は聚樂に於ける秀次公に於かせられては、秀吉公が自分に目を注けて居ると云ふことを知るや知らずや、相變らずの放蕩三昧、三十人からの御妾を置いて日夜淫酒に耽り、天下の政道も何もあつたものではない、日本國中皆鎧を着け、國家の爲に朝鮮及び大明を征服して之を日本の領土となさんと云ふ太閤の御心に從ひて事を致して居る其中に、己れは少しも夫れを顧みず、只月に浮れ花に戯れ、聚樂の御殿は何時も琴の音色琵琶法師の歌、世を外なる樂しみは實に何とも申さう樣もないから、家老の木村常陸介は大いに之を心配致して飽まで諫め奉らんの考へ、或日秀次公の御前へ罷出てますると、一方には御氣に入りの不破伴作、是も綺羅を飾つて控へて居りましたが前申上げる通り此者仲々の人物だ　伴「是は常陸介樣でムいますか　常「オウ伴作か、何を致して居る　伴「只今壽語錄の御相手を致しました所で……　常「伴作、今日は左樣な事を致して居る時ではなからう、其方も血氣の若者、少し武術の鍛錬でも致せ　伴「ヘツ恐入りました……」常陸介が夫れとなく伴作を叱ると、秀次公が　秀「コレ〳〵常陸介、何もさう申さぬでも宜いではないか、今日は天下太平諸民萬歳を樂しめは樂しむる時なので、夫れを己れの勝手に兵を動かし國を騷がせる太閤の亂暴、實に馬鹿〳〵しい話だ、其方も野暮な事は申さぬで少し酒でも飲め……」　常「是は上樣には何を仰せられまする君には太閤殿下の思召を以て新關白とならせられ、其恩海山よりも重し然るに此度秀頼公御出生遊ばして以來何となく淀殿にはひが[illegible]て御疎遠になり從つて太閤にも我君へ御目を注けられるやうなる始末、今日の儘に過ぎ往きなば我君の御身の上如何なる事になるやも知れぬ、世間の噂さにては今に新關白は職を奪はれ何れへかやられるならんなど丶申して居る位、どうしても遠き西國か北國へ五十萬石位にて流人同樣、追ひやられ給ふは鏡に掛けて見る如し、其時に至りなば何と騷ぎ給ふも其詮なし、是は今から御賢慮遊ばさねば相成りますまい、夫れに付て此常陸企少し考へ付いた事も厶いまするが」と言ひつゝ膝を進めた

●不正密輸入軍銃取押へ　不正密輸入軍銃[illegible]税關の手に取り押[illegible]

●工事の積合せ　複線工事熊岳城蓋平間目下積合せ中十二日に結果見らるへし

●地方行政の實行　撫順管內滿鐵の地方行政來る十一日より實行せらるべし然して炭坑長之れが主載者たるべしと云ふ

●行政員の出發　滿鐵地方行政を執るべき役員各地へ向け夫れ〳〵出發したり（九日午後四時大連支社特電）

●營口に入るの記（五）

神戸の旅宿に倥偬の身を置く繹三日、大阪商船の開城丸は其の三日目の當日前十時當埠頭を解纜する繹となつて居る。由つて前日浪花の地に到り二友と離別を惜しみ翌朝九時と言ふに愈々解脚船に投じて本船へと向ふのである。中に誕生位な小供を抱いた一寸混血兒に似た奇麗な奧樣風の婦人と、嫌に大阪訛りを撒き散らす齡の頃二十五六のお神樣風の婦人、而して今一人が自ら稱して東京兒と誇つて居るお神樣と奧樣とを搗き混ぜた樣な格好の婦人。此の三人は即ち三つの問題となる。十分時ならずして本船に乘ることが出來た。時に風聲浪を起して舷を洗つて居る。希くば船靜かなれと念じつゝ須臾にして自分の居所を定める。尤も此船に限つて船客が非常に多いが爲め一二等は既に滿員と言ふ調子、已む無く三等に繰り込んで前記の三名と對角線を描いて陣取つた。船は名殘の笛聲を山に留め水に傳へて、油然たる瀬戸內海の右と左に言葉に盡きぬ絶勝を些の動搖も無く進むのである。船は事も無くして、翌朝門司に着し、門司を過ぎて、玄海灘方角へ西へ西へと波を蹴る、言ひ遲れたが此の船には今大連で興行して居る力士小綠一行が乘つて居る。船が丁度玄海灘を過ぎつて一日目に船中には較々驚くべき怖るべき虎列剌病が力士の一行中に與つたとの噂が廣がつた。旅客の大半は皆な蒼くなつて了つて果して無事に上陸が能きる歟否やをボーイを捕へて聞くのであつた。船に一人の露西亞人と土耳其人が乘つて居る。言葉が通じぬ爲めに甚だ無聊に堪えぬらしい。僕は此二人より少しく耳新らしき談話の澤山聞くを得た。長くなるから日を換へ題を更めて書く繹と仕やう。（留川）

●哀れなる投身

去る七日の朝、遼陽西門外西界寺邊にて曉風を破りて唯ならぬ叫聲起りぬ何事ぞとて走せ行き見れば一の井中に生後百日許を經たる男兒の屍体浮び傍に女下駄一足正しく並びて脱ぎ捨てありたり扨こそと寄り合へる人々は芳力を呼び集め井中を捜索し一方警務支署へ知らせしかば程なく署員醫師等出張し共々盡力して引き上げしに年の程二十三四と見ゆる窶れたる女なり若しや玉の緒を取り留むることの出來べきかと種々手を盡せど其甲斐なし二つの袂には裂き切れなむ斗りに小石を入れたれば覺悟の程ぞ知られける去るにても可愛の嬰兒と悲しき運命を共にせるは余程の事情なくては叶ふまじと尚探り聞くに此婦人は鐵道附屬地川三洋行雇人なる津田宗一の妻コト（二三）及び同長男繁雄（一）にて夫婦中いと睦しく暮しけるが同人は産後ヒステリー症に罹り些細なる事柄をも痛く氣に病み且つ夫が此頃商業に失敗し何事も意に任せざるよりいとゞ浮世を果敢なみしかば某も常に之を勞はり取り詰めん許りに歎き悲みし故樣々にすかし慰め寢酒にとて一瓶の葡萄酒を買ひ求め倶に之を傾けて機嫌能く臥床に入りしが翌朝フト眼を覺し見るに妻子は藻拔けの殼なれば定めて小用にても行きしならんと思ひしに待てども〳〵歸り來らぬにぞ茲に始めて不審を起し近所隣りを問合す內寺裏の井戸に女の投身ありと聞くより若やと胸をときめかしつゝ取る物も取りあへず馳付見れば果して夫れにて淺ましき姿なりしかば暫しは茫然と我を忘れてありしが斯くあるべきにあらざれば淚ながらに我家へ引き取り本願寺出張所の布教師善藤和尚を導師として泣々茶毘一片の烟りとなしけりとぞ哀れなる談と云ふべし

●大相撲今日の取組は左の如し
土州山（綾川）加古川（勝時）
清見嶽（荒木山）今錦（鳳）

赤見、あけまき、水密桃、鑵詰入荷仕候
大連 田川村洋行

●難船の救助

一昨八日當地に入港せる大阪商船會社瀛洲丸は七日未明大連を出帆し當港に向へる途上同日午前十時半旅順口老鐵山沖合西北四哩の所にて一帆船の難波せるを救助し旅順港口迄引致したる由なるが聞く所によれば同帆船は安東縣林袖吉の所有に係るものにして福榮丸と稱し三百六十石積の帆船にして安東縣より材木を搭載し芝罘に向はんとせる途中本月六日大連沖合にて暴風に遭ひメーンマストを折られ帆布を破られし爲め進航し得ざるに至り旅順沖に漂流しつゝある所七日朝遂に瀛洲丸の通過するを發見し救助を求めたる次第なりと尚同帆船は旅順にて修理の上再び芝罘に向つて出航する筈なり乘船員は日本人三名朝鮮人一名にして何れも無事なりしと云ふ

●好角舊話（一）

扶桑生（寄）

此稿暮水君の樽の間書は誠に面白く讀みました生も亦好角家の一人で相撲と來たら飯よりも好きの方であるソコデ相撲の事に付て何か書て見樣と思ふ然し近年の事は誰でも能く知つて居る事だから少し古めかしい所を記憶から呼び起して書く事にした

▲今からすると最二十六七年も前の事だ、確か明治十四年だと思ふ、東京方は大關梅ケ谷（取締雷）關脇司天龍（年寄八角）小結響矢（取締高砂）大阪方は大關響矢（後に東京の大關劍山今年寄武藏川）松の音（故人）關脇入陣異力等の顏觸で、大阪南地に京阪合併の大相撲を催した

▲其時雷名を博したのが彼大達で、當時同人は未だ幕下の二枚目、位置は甚だ低くかつたが、實力は三役をも凌いだ程で、大阪方の東西兩大關を除き、關脇以下と顏を合せ、十日間の全勝に上方連の舌を卷かせた事がある

▲其大達が江州大津て、東京大阪京都の三都合併大相撲に大阪方西の大關松の音と初て顏が合た、生も其時殆度見物して居たが眞に珍らしい相撲を取つた、其頃は西京方にも今とは違ひ小柳磯風春日森（後に大阪の大關大鳴門）等の强の者が揃ふて居たのださうだ

▲偖大達と松の音とがドンナ相撲を取つたかと云ふに、双方ヤツト云ふて立た切り双手を擴げたなりて突きもせねば素より組みもせず手車にもならず只突立た儘て互にヤ〳〵と掛聲をして氣合を計るばかりて水が入り果てしなくして遂に引分に終つた、生も數十年の間コンナ相撲は此れより外に見た事はない、素人眼には八百長らしくて誠にツマラ無く見へたであらうが、仲々ドウシテ本人同士は背にも胸にも流汗淋漓て互に一寸の隙も無く仕掛ける事が出來なかつたのである

一等貸座敷　芙蓉樓（電話一二九）

最低四九、六　高一三、二

大連　南の風晴り
奉天　南の風晴れ

百花園

旅順　實万亭の八千代は海に千年山に千年と云ふ程ではないが年の功にて中々手練手管者、〆吉は面は二の町なれど客に對する手取者でとんぼは京都生れのむつゝり者で活氣の乏しいのが缺點併し藝は流石にうまいチト勉强して愛嬌を賣つては何ぢや▲二龍は腕は感心せぬが親切者故誤最負筋は同地第一との噂さ今度樓主丸井の養女となり丸井の二龍か二龍の丸井か兎に角お目出度や〳〵、ぽんたは肩上の取れぬ頃より四十八手の表裏に妙を得て居る長々病氣にて四國參りにても行きはせぬかと氣を揉んで居たが此頃全快とは結構の至り、鈴子は亭中第一等の代物男を腦殺する腕前はたしかなもの此上藝に勉强すれば辻占大吉、鈴江は何樣色の白きは七難隱す譬の如く此妓は雪より黑く墨より白き八難隱す愛嬌者、小三は藝は滿洲式一人娘の稱あるは如何なる譯か聞けば此頃兩親共子故に闇の遙々と大連くんだりまで尋ねて來た親馬鹿チヤンリン

▲相撲七日目の勝負　鳳加古川は立上り加古一氣押出さんとするを鳳はたき込て勝▲鳴戸岩手柄山は左四つ鳴戸スクヒ投手柄殘らんとするを突倒して鳴戸の勝▲今錦大碇は立上り今の突貫碇ハタキに防ぎ今あぶなく泳ぎ立直り素早く左差碇泉川にきめ出さんとする今掛足に防ぎ碇尚ほ泉川にきめ出さんとするを今トツタリを打つ碇殘らんとするを突倒して今の勝▲清見嶽綾川は清見左もろ差に肩スカシ引しも綾巧にに殘り綾素早タスキ振け敵殘ちんとすうヒトツタリ打ち綾の勝▲西昇は好取組の事なれば西土俵に上るや呼聲多し双方化粧立數回立上る双方共烈しく突合西素早く左差い强引にも泉川きめ出さんとするを西のトツタリ美事きまる▲左倉川大林は左四つ左倉の寄身林のスクイ投け美事きまる▲高根松有知山は突合高根左差となるや素早くスクイ投を試みしも有知巧に殘り水入となる后高根の寄み有知釣出して勝▲小綠朝日潟は左四つ朝日の寄身を下手投にて綠の勝▲琴ノ浦勝時は立上るや時二本差に押さんとする琴突放しとけて再度び琴の出鼻時の肩すかし美事きまるは番狂はせ勝時大關を破りしは大手柄なり

●大相撲八日目の勝負　日々好評を博せし大連大相撲は去る七日にて千秋樂の處同地乘込みの際船中にて病氣に罹り遂に死去せし小綠の弟子白藤の追善興行の爲め三日間日延せり而して一昨日の勝負は左の如し

勝	負	勝	負
小猫	有知岳	信乃川	藤渡
有明	小碇	加古川	清見嶽
手柄山	西昇	鳴戸岩	小綠
朝日潟	勝時	有知山	綾川
琴浦	い		
中入後			
大碇	左倉川	高根山	土州山
大林	今錦		

●大相撲其後の豫定　大相撲は本日大連打上げの後旅順に乘り込み五日間興行終つて營口三日間夫れより遼陽安東縣を經て韓國京城に赴く都合なりと

●大連壽座の藝題替り　全座にては去る二日開場以來非常の大人氣なりしが今十日よりは薔薇緣、大序より公判まで十二幕通しを演ずる由其役割は左の如し　光城幸（伊井蓉）ホテル女中お德（伊藤靜子）令妹花子（花澤勸）西村勘次（大山滋）薔薇隊員（大崎十郎）侍女お千代（金澤二郎）薔薇隊員（中村一夫）印度人ロンガー（村上かほる）花園正廣、花園正之（楠本四郎）家令大塲利巳（黑田天外）男爵梅垣春雄（川上亭）漁師梅吉、櫻木誠（間宮賢之助）薔薇隊員（藤川五郎）花園令嬢文子（河野明治）千草久哉（小西憲正）原進（愛澤正義）藝妓一二三（櫻井一醉）藝妓時次（櫻木小奴）淸國人張逸（光田幸雄）植木屋米丸（關根忠雄）

●鐵嶺流行病　最近鐵嶺の流行病は何等の發生を見ず只本年六月以降に於て腸室扶斯患者八名を出したるのみにて一般の衛生は比較的行き屆き居れるか如し尤も右の患者は經過極めて不良にして中六名は死亡するの結果を見たるも係は畢竟患者自身の不注意に基因するものにて既に其發生を屆出でたる際は殆んど恢復の望なき迄に病勢昂進し居るの有樣にて之に對する當局者の苦辛も一方ならざりし由目下避病院は支那家屋を借り受け居るが行々は新築すへしと

●滿洲のちり　▲安東　大阪南區日本橋筋東二丁目四五九九新谷小梅（一九）は鐵嶺西關西區四十七號料理屋清月事磯浦元次郎方に酌婦として住込み中去月廿七日無斷家出し安東縣に逃走し來たり居る形跡あれば同警察署より其旨通牒來れりと▲大連　吉野町かちどき方藝妓力彌は金三百圓にて寬城子の商人河村某に根引せられ目下市場前の中野と云へる家の二階に立籠り居る由▲遼陽　城內西街滿洲ホテル方淵上もとえ（一八）は實扶的里病に罹り官設醫院に收容されたり之を同地に於ける同病發生の始とす▲奉天　熊本縣上益城郡乙女村平民住所不定井芹常記及福岡縣田川郡弓削田村住所不定神田勝は同地兩替店にて露國僞造紙幣兩換の際其筋の手に押へられ目下領事館にて豫審中

投書かご

（いしほんまくた）

▲滿洲まで來る樣な人は大低道德上、法律上、事業上で前科數犯の者である（覆破子）▲四尺に足らぬ人は見榮えがないと云つて六尺あまる人はまた醜いと同じ樣に何事にまれ度を過ぎぬが好い（花影）▲鐵嶺九州館に上つたら料理の安いのに驚いた圓助て五品の珍味に酒三本お負けに新來美形の待遇ットト手には流石の僕も到當捕虜となつて翌朝無罪放免の恩典に接した呵々（突撃生）▲氣焰家諸君よ小生も百一日目で孟家屯へ歸りましたから追々艷種を提供しませうお差障りの御方は御免やす先づ第一に○○裙と△△君の關係から……（西四子）▲ツマラナイない仁輪加などを受けて來る人の氣が知れぬモ少し氣のきいた者を興行し給へ寒くなつてからは到底駄目だから來月末までにドシ〳〵遣り給へ（注告生）▲祇園のお濱は余り大頭にばかり關係するから遠からず大頭の衝突が出來るだらうとの同閣下馬評（眞砂）▲大相撲の行司木村玉造は物言の際に軍配を杖に突く癖がある一體軍配は相撲の魂にて軍旗同樣だぞ大に注意し給へ（一客）▲地方興行は大低八百長相撲が多いに極まつて居るが之を余り目立たぬ樣にやるのが即ち上手な所である何もかも內幕を知り抜いては見る勇氣も挫けて仕舞ふ（通々）▲酌婦連で客の待遇のうまいのは誰だらうか諸君の投票を願ひたい（一投書家）▲福子は墮落し奴は八々專門、名物女辯護士兩名もトウ〳〵零となつた（呆生）▲舊市街木村呉服店主人は有名の美術狂ひだ且つ商賣に熱心である目下賣出しの大繁昌も全く其結果だ（正直子）

めうがや製
東京足袋　盛進商行（電話二〇番）

特別廣告
牛莊郵便局爲替貯金
金銀受拂相場　自十月六日至十月十二日
軍票又ハ圓銀壹圓ニ付
本邦通貨　金壹圓○三錢六厘
電話問合ヲ謝絕ス

南滿洲鐵道列車

廣告

營口出帆廣告

廣告主へ御用の節は滿洲日報にて見し旨御申添被下度

日本郵船會社瀛船出帆

酒田丸（十五日未明出帆大連門司神戸横濱行）
竹島丸（十八日午前六時出帆大沽芝罘門司神戸行）
御乘客は前晩六時迄に御乘込相成度候
乘船切符發賣ハ出帆前三時迄 未明出港ノ分ハ前日午後五時迄
營口代理店 旗昌洋行（電話二六番）

瀛船營口出帆

摩耶山丸（十一日入港豫定）
頼朝丸（十六日入港豫定）
音羽丸（十九日入港豫定）
御代丸（十月十二日入港豫定）
福陽丸（十日入港）
松茂洋行 電話（五二、五七）

瀛船出帆廣告

長柄丸（營口天津間定期）
萬成源丸 第二生田丸（營口芝罘天津間定期）近日入港
代理店 東和公司（電話四一〇番）

大連出帆廣告

日本郵船會社瀛船出帆

薩摩丸 十六日正午長崎行
酒田丸 十七日正午門司神戸四日市横濱行
大棧橋より發船可致候
日本郵船株式會社大連出張所（電話貳壹〇番）

大阪商船會社瀛船出帆

天草丸 十二日正午門司神戸大阪行
大義丸 十九日正午門司神戸大阪行
開城丸 十五日門司神戸大阪行
大棧橋より發船可致候
大阪商船株式會社大連出張所（電話貳貳零番）

松茂洋行船舶部瀛船出帆

頼朝丸 十五日午後四時營口行
音羽丸 十八日午後四時營口行
乘船切符は吉野町大山通り角〇ト運送店にて發賣可致候
大連市監部通り二丁目（電話二五九番）河邊商店大連出張所松茂洋行

資本金貳千四百萬圓
積立金壹千五百零五萬圓
本店 支店出張所
横濱 神戸 東京 長崎 大阪 倫敦
里昂 紐育 桑港 布哇 孟買 香港
上海 漢口 天津 北京 大連 旅順
奉天 遼陽 芝罘 鐵嶺 安東縣 長春
寛城子
電話十番（支配人室）（百八番事務室）
横濱正金銀行牛莊支店

正隆銀行

總經理人 深水十八
營口元神廟街二八六 電話（支配人室 三四一 事務室 二一〇）

隆記洋行

西分店 西營口老爺閣東小紅樓西南側 電話 四二

冬物荷揃

三週年 賣出し
今回祝意の爲め……十月五日より十五日迄冬着賣出安賣は元より又々突飛の大安賣反物地丈けは壹反に付特に金七拾五錢引日中販賣仕餘興として福引仕候間何卒御來車の程奉待上候
景品目次
天、朱珍廣帶 壹本
地、濱縮緬小紋 壹反
人、御召縮緬 壹反
外に絹布及綿布數百反
福引券は金參圓毎に壹葉を呈し直に改札現品引換可申候但し福引券は無駄籤壹本も無之候
營口木村呉服店（電八八番）

土木建築請負

煉瓦、石灰、石材及び各種建築材料
各出張所所在地 大連 長春 公主嶺 鐵嶺 湯崗 奉天 張臺子 千金寨 遼陽
營口 廓家店
飯塚工程局（電話一六五）

新築落成御披露

此際懇切丁寧を旨とし特別大勉强大販賣仕候間何卒陸續御注文御仰付被下度奉願上候

寸法用書改正第八販定價表郵券二錢送付あらば進呈
登錄商標
近來此の黒クリームの摸造品を販賣する者あり登錄商標櫻印に御注意を乞ふ

クリーム製造元 獨逸國伯林市ハイデ商會 日本代理店
雜貨直輸入 靴鞄製造問屋 東京市芝區櫻田伏見町 内田直三商店（電話新橋一五五一番）

和洋諸紙卸商

大連市伊勢町四二號地
河邊大連支店

支那松 大角及尺角 貳拾壹尺
全 二寸板一寸板 貳拾壹尺
全 製材角及板類 五厘
二道溝渡一才 銀票 拾壹錢
鐵嶺渡一才 全 拾壹錢
奉天 全 八錢五厘
右の外御望に應じ製材御調辨可仕候也
公主嶺 寛城子 北門外
北辰公司支店 全出張所

金二商會

米穀 食料品 雜貨
札幌 澤龜 旭
大販賣店

旅館 大和館

店主 前田九一郎
永世街第三十四號（電話壹壹三番）

純良醫藥 工業藥品 著名賣藥 醫料器械 卸小賣
營口永世街
東瀛大藥房

電話一四八番 振替貯金七〇一
分店 營口新市街本町一丁目（通順泰東） 中馬藥局 藥劑士 中馬龍造

ヱビスビール

營業品目 白米 硫黄 木炭 石炭 食料品 雜貨 委托販賣
大連奥町
山縣大連支店

發信略語（二）「電話二二七」

鐵嶺 高砂ホテル

眼鏡印肝油は精分の藥

七拾五磅入 壹磅入 半磅入
大阪道修町三丁目 伊藤千太郎商會
賣捌店は全國到る處藥店にあり

新築二階建
生そば 精肉かしわ すきやき 天麩羅
鐵嶺西門外 日鐵

廉價
滿洲煉化製造所工場 大連市南山
滿洲煉化製造販賣部 大連市羽前町（電話四三八）

森病院

內外科 產婦人科 齒科（入院隨時）
院長 森矯
營口永世街（電話一五五）

頭彩壹萬圓
第二十四次 大連彩票賣出
開彩十月二十六日
裕和盛（電話八壹）

專業旅館 東京樓

營口乘車乘船最好の位置（電話一八七）
團隊四人樣以上は規定宿料外格安勉强割引可仕候高等御下宿は面議廉價御賄可申上候

一般患者ノ診療ニ應ス

（性病診療 入院隨意）
醫學士 松井甚四郎
營口同仁醫院
新市街寶來街 電話番號（一七八番事務室 一七一番病室）

專業御旅館 清林館

開業以來の御高評に背かざる樣何事も益誠實に御客樣の便利を計り極めて丁重に御扱ひ致御宿泊料の如きは出來得る限り勉强可仕候間何卒特別の御贔負偏に奉希上候敬白
營口新市街南本街 電話三〇一番

日本旅館

專業旅館並に高等下宿
營口新市街千代田街
店主 三野傳藏（電話一三〇）

會席御料理
鐵嶺西門外 醉花園

新荷廣告

〇〇大塊石炭及無煙炭
〇〇亞鉛板及洋釘
〇〇木炭
〇〇セメント
〇〇日本白米
〇〇消石灰
右各種は昨日入港の船音羽丸にて今回到着廉價販賣致候殊に無煙炭は火力强大普通石炭の參倍余の耐久力を有し室内を汚染せず煙筒掃除の必要なし至極經濟的に候市内は御注文次第多少に不拘配達可致候

材木商 營口 喜久洋行（電話三一四）

廣告

川上保太郎 木村恭太郎 石丸喜代造
右解雇候に付爾來當組に關係無之此段廣告候也
月 日 吉川組

會席御料理 御旅館 彌生 鐵嶺西門外
彌生倶樂部
新調の玉突臺及將棋盤等備付あり

冬物荷揃

洋物店 牛莊新市街 盛進商行
振替貯金口座一万百十九番 電話二十番

冬物荷揃

帽子 毛布團 毛布 モヘル シャツ 沓下 手袋 窓掛 机掛
營口三友洋行 電一七四

物價

營口爲替相場 十月九日

正金銀行一覽拂(百圓ニ付)

- 內地 一〇二圓
- 天津 一〇三圓四分ノ三
- 上海 一七〇兩
- 芝罘 一〇四圓四分ノ一
- 銀塊相場 三十片八分ノ一

同通貨相場

正隆銀行	受	拂
銀貨(百圓)軍票	八八、〇〇	九〇、五〇
金貨(百圓)軍票	九七、三〇	九八、〇〇
「ルーブル」ト軍票	九九、一〇	一〇〇、六〇
墨銀ト軍票	一〇三、三〇	一〇四、八〇

▲營口物價▼

●大豆豆柏

- ▲豆柏 一兩七
- ▲新豆 九兩四
- ▲仝 九兩七

●石炭類(寶久洋行) 軍票標準

- 赤豚口上塊炭 一噸 二〇、五〇
- 福井粉炭 仝 一七、〇〇
- 無煙炭 仝 [illegible]
- 木炭 八貫入一俵 百斤 一、九〇

●亞鉛引板類

- 浪板廿八番六尺 一枚 [illegible]
- 仝 七尺 仝 [illegible]
- 仝 八尺 仝 [illegible]
- 平板 仝 [illegible]

●洋釘類

- 七分五厘(インチ百斤) 一〇、五〇
- 一インチ二分五厘 仝 九、九〇
- 一インチ半 仝 [illegible]
- 一インチ七分五厘 仝 [illegible]
- 二インチ 仝 [illegible]
- 二インチ半 仝 [illegible]
- 三インチ以上 仝 [illegible]

●穀類

- 肥後一等白米 壹石 三三、〇〇（市內配達は苦力賃申受候）

●淸商綿布綿糸綿花相場（○印は日本品）（一梱ニ付）兩

- ○十六番手蘭花綿 一〇、二五
- ○十六番手鶴 仝 [illegible]
- 十丈老船橋 仝 [illegible]
- 仝 彩船 仝 [illegible]
- 仝 人招茶 仝 [illegible]
- 仝 紅人竹 仝 [illegible]
- 大丈金寶星 仝 [illegible]
- 仝 寶塔 仝 [illegible]
- 十丈大小英花其布（一匹ニ付） [illegible]
- ○○仝 一號二馬 仝 [illegible]
- 仝 一號三馬 仝 [illegible]
- 仝 一號人馬球 仝 [illegible]
- 仝 二號人馬球 仝 [illegible]
- 仝 獅 仝 [illegible]
- 十五龍印打連布 [illegible]
- 仝 老雙兎 仝 [illegible]
- 仝 大小英 仝 [illegible]
- 仝 大熊星 仝 [illegible]
- 八丈豐裕扶布 [illegible]
- 同興隆大尺布（百尺ニ付） [illegible]
- 永學 仝 [illegible]
- 朱福源 仝 [illegible]
- 廣大和 仝 [illegible]
- 公大昌 仝 [illegible]
- 和順長 仝 [illegible]
- 大裕清水布（二匹ニ付） [illegible]
- 益成 仝 [illegible]
- 九華綿花（百斤ニ付） [illegible]
- 雪錦 仝 [illegible]
- 陳元生 仝 [illegible]
- 東京京 仝 [illegible]
- 四豐 仝 [illegible]
- 鼎大 仝 [illegible]
- 鴻把 仝 [illegible]
- 朱增 仝 [illegible]

●美濃紙（新市街見木洋行）

- 美濃紙大印 [illegible]
- 仝 松印 [illegible]
- 仝 眞牛紙 金印 [illegible]
- 仝 銀印 [illegible]
- 仝 福印 [illegible]
- 仝 半紙上 [illegible]
- 仝 生漉 [illegible]
- 六寸半切 大印 [illegible]
- 仝 金印 [illegible]
- 仝 福印 [illegible]
- 大七九紙生漉松印 [illegible]
- 七九仝 [illegible]
- 塵紙生漉上 [illegible]
- 仝 中 [illegible]
- 障子紙（一束三百） [illegible]
- 越前奉書（八十枚） 一〇、〇〇〇
- 中ノ內（全） [illegible]
- 仙花（一東六百枚） [illegible]
- 美濃紙上（一千枚） [illegible]
- 仝 [illegible]
- 半紙 [illegible]

●木材相場

- 杉丸太一丈（末口オ） [illegible]
- 仝 二間（全） [illegible]
- 仝 三間（仝） [illegible]
- 松丸太一丈二間（全） [illegible]
- 杉押角一丈二間（全） [illegible]
- 杉板四分（一坪） [illegible]
- 仝 大分（全） [illegible]
- 仝 八分（全） [illegible]
- 松板六分（全） [illegible]
- 仝 八分（全） [illegible]
- 仝 正一寸（全） [illegible]
- 松板四分（一坪） [illegible]
- 仝 八分（全） [illegible]
- 栂板全（全） [illegible]
- 杉大角物（一石） [illegible]
- 櫻々角（全） [illegible]
- 仙臺檜（全） [illegible]
- 北海松（全） [illegible]
- 杉貫大（十枚） [illegible]
- 全 中（全） [illegible]
- 松垂並（一月） [illegible]
- 全 正角（全） [illegible]
- ●注意 以上は並物を標準としたる價格なり

●（新市街加藤洋行調）

- 菊正宗（三九入）一樽 [illegible]
- 仝 瓶詰（四打入）一函 [illegible]
- 仝 進物用一打入 仝 [illegible]
- 札幌麥酒 仝 [illegible]
- スペシャルブ 仝 [illegible]
- イト恩麥酒 仝 [illegible]
- 蜂印香竄葡萄 仝 [illegible]
- 酒大（四打入） 仝 [illegible]
- 仝 小（七打入） 仝 [illegible]
- 孔雀印キノ水 仝 [illegible]
- 三ツ矢印シャンペンサイダー 仝 [illegible]
- ヤマサ醬油 一樽 [illegible]

●（新市街盛進洋行調）

- 稲正宗 四五入 壹樽 [illegible]
- 仝 二五入 仝 [illegible]
- 仝 二三入 仝 [illegible]
- スペシャー 四打箱 [illegible]
- ルライト 仝 [illegible]
- エビスビール 一函 [illegible]
- 醬油金京印 一斗入一樽 [illegible]
- 仝 二入 仝 [illegible]
- 仝 二入 仝 [illegible]
- 孔雀印平野水 一函 [illegible]
- シャンペンサイダー 仝 [illegible]
- ジンジャエール 仝 [illegible]
- 防長上米 石 [illegible]
- 中國上白米 仝 [illegible]
- 朝鮮白米特等 仝 [illegible]
- 仝 上 仝 [illegible]
- 新上木炭 正味十貫 [illegible]
- 極上玉露 全八〆 [illegible]
- 宇治高砂 斤 [illegible]
- 仝 [illegible]
- 正喜撰 仝 [illegible]

●日本綿布相場（永順洋行）

- 牡丹牌大尺布 一疋 [illegible]
- 桃牌仝 [illegible]
- 貫字佛青布仝 [illegible]
- 仝 藍布仝 [illegible]
- 堅字佛青布仝 [illegible]
- 仝 深藍布仝 [illegible]
- 花旗佛（麒麟印）廿碼 [illegible]
- 青布 [illegible]
- 東洋綾子頭等 一碼 [illegible]
- （孔雀牌）二等 一碼 [illegible]
- 全 [illegible]
- 東洋花手巾 一ダース [illegible]
- 全 毛手巾 一ダース [illegible]

- 鶴印ソース（六ダース入） 一函 [illegible]
- 和ソース（六ダース入） 一函 [illegible]
- バタ（一磅罐百個入） 仝 [illegible]
- グリーンピース 仝 [illegible]
- 筍（三十個入） 仝 [illegible]
- 松茸（四ダース入） 仝 [illegible]
- 百合印蒲鉾 仝 [illegible]
- 鮑（四ダース入） 仝 [illegible]
- ビスケット（五十磅入） 仝 [illegible]
- 旭奈良漬三斤罐（四ダース入） 仝 [illegible]
- 奈良漬 一樽 [illegible]

▼遼陽物價▲

- 白米 四斗俵 [illegible]
- 味噌 一貫目 [illegible]
- 砂糖 一斤 [illegible]
- 醬油 一斗 [illegible]
- 酒 一升 [illegible]
- 石油 一罐 [illegible]
- 魚類罐詰 一ダース [illegible]
- 野菜 仝 [illegible]
- 牛肉 仝 [illegible]
- バタ 一ポンド [illegible]
- ソース 半ダース [illegible]
- 烏龍茶上 仝 [illegible]
- 仝 中 仝 [illegible]
- 青柳 半斤 [illegible]
- 銀印ビスケット 一磅入 仝 [illegible]
- ハウスホールド 仝 [illegible]
- スポンヂ 仝 [illegible]
- ローズ 仝 [illegible]

●菓子類

- ビスケット 一磅 [illegible]
- トロップス罐入 仝 [illegible]
- スターチ 罐入 仝 [illegible]
- ビール 一瓶 [illegible]
- 罐詰酒類 口 仝 [illegible]
- エジプト煙草 百本 [illegible]
- メリケン帽子 一個 [illegible]
- 鳥打 仝 [illegible]
- カラー 仝 [illegible]
- ワイシャツ 仝 [illegible]
- フランチルシャツ 仝 [illegible]
- 木綿メリヤスシャツ 上下 [illegible]
- 毛 仝 [illegible]
- 靴下 一打 [illegible]
- 和蘭鍋 一貫目 [illegible]
- 下駄表付 一足 [illegible]
- 仝 桐直バキ 仝 [illegible]
- 仝 山桐 仝 [illegible]

- 半紙 壹〆 [illegible]
- 硯箱 壹個 [illegible]
- 筆 壹對 [illegible]
- 墨 壹挺 [illegible]
- ソロバン 一 [illegible]
- 算盤 一 [illegible]
- 狀袋 百枚 [illegible]
- 卷紙 一本 [illegible]
- チリ紙 一〆 [illegible]
- ネキタイ 一 [illegible]
- ネキタイピン 一 [illegible]
- 石鹼 舶來一 [illegible]
- 仝 內國製一 [illegible]
- 茶器之揃 一組 [illegible]
- 仝 九谷燒 仝 [illegible]
- 急須 一 [illegible]
- 土瓶 一 [illegible]
- 小皿 百 [illegible]
- 中皿 仝 [illegible]
- 三ツ鉢 壹組 [illegible]
- 水差 一 [illegible]
- 飯茶碗 一 [illegible]
- 盃 百 [illegible]
- 醋壜 百 [illegible]
- 茶正喜撰 一斤 [illegible]
- 仝 川柳 仝 [illegible]
- 手帳 一冊 [illegible]
- 通帳 仝 [illegible]
- 簿記帳 仝 [illegible]
- インキ黑 一磅 [illegible]
- 仝 赤 半 [illegible]
- 石鹼函 一 [illegible]

- 箸箱 一 [illegible]
- ハンカチーフ木綿 一打 [illegible]
- 仝 麻 仝 [illegible]
- 仝 絹 仝 [illegible]
- 人形 一 [illegible]
- 足袋黑 一 [illegible]
- 仝 白 一 [illegible]
- カタン糸 一打 [illegible]
- 香水 一 [illegible]
- 壁紙 內地製 百枚 [illegible]
- 仝 獨乙製 一卷 [illegible]
- 行李竹 一 [illegible]
- 仝 柳 一 [illegible]

●淸白米（一石ニ付）（西街瑞泰洋行）

- 特壹等（◆系井） [illegible]
- 特等（◆業井） [illegible]
- 壹等（◆舟印） [illegible]

●罐詰類

- 鮭（一斤）四ダース [illegible]
- 鰻（半斤）八ダース [illegible]
- 鱒（一斤）四ダース [illegible]
- 鯖（半斤）八ダース [illegible]

●化粧品

- 御園四季花 壹ダース [illegible]
- 御園の雪 仝 [illegible]
- 御園とき水 仝 [illegible]
- 閨秀磨 仝 [illegible]
- 仝 壜入 仝 [illegible]
- チエリーオイル 仝 [illegible]
- チエリーポマード 仝 [illegible]

（向井洋行）金票

- 青酉金露 四斗四升 [illegible]
- 札幌ビール 四ダース函 [illegible]
- 醬油ヒ印 壹斗 [illegible]
- 仝 梅印 仝 [illegible]
- 仝 櫻印 仝 [illegible]
- 仝 福印 仝 [illegible]
- 東京澤庵漬 十二貫 [illegible]
- 銀印ビスケット 磅 [illegible]

(二) 明治四十年十月十日 滿洲日報第六百五十二號附錄

▼大連物價▲

●木材（秋田商會支店）

品目	單位	價格
杉四分板壹間並上	壹坪	一、一〇〇
仝 無節	仝	一、五〇〇
杉六分板 並上	仝	一、三五〇
仝 無節	仝	一、八〇〇
松壹寸参分板並上	仝	三、二〇〇
松正壹寸板	仝	二、三五〇
松並壹寸	仝	一、七五〇
松ノ分板	仝	一、六五〇
松六分板 耳摺	仝	一、一五〇
縦壹寸参分無節		四、五〇〇
縦八分板並品		一、四〇〇
縦四分板		一、〇〇〇方 一、六〇〇迄
杉板割貳間正八分	壹坪壹枚	二、三五〇
杉大貫		二六〇
杉中貫		二四〇
杉小貫		二〇〇
杉木摺		三五五
杉垂木 正寸六分角		六八〇
正寸八分角		三五〇
正寸二分角		二〇〇
正壹寸角		一一五
並品	壹肩	一六〇
松敷居 正角	仝	一、九〇〇
並品	仝	一、五五〇
松垂木 正角	仝	一、八五〇
並品	仝	一、五〇〇
杉大角貳間尺〆	下	七、五〇〇
杉挽小角貳間一才	上	一〇、〇〇〇
杉押小角一才	上	〇九五
松大角貳間尺〆	中	八、五〇〇
北海道松角	仝	六、五〇〇

●洋麵 但馬町二番地（日本製粉株式會社）

品目	單位	價格
寶船印	（各一袋）	二、三八
日本旗印		二、三三
ロシヤ印		二、三五

●洋酒 大山通二丁目（宅合名會社大連支店）

品目	單位	價格
麒麟大	四斗五升	一六、八〇〇
仝 牛	二斗	八、五〇〇
仝 瓶詰	四打入	一〇、五〇〇
札幌麥酒	仝	八、八〇〇
同 黒麥酒	仝	一〇、〇〇〇
朝日麥酒	仝	八、八〇〇
同 スペーシャル	仝	一〇、五〇〇
蜂印葡萄酒	仝	一七、五〇〇
孔雀平野水	仝	四、〇〇〇

品目	單位	價格
ジンジャーエール	仝	五、〇〇〇
三ツ矢印サイダー	仝	五、〇〇〇
洋酒シャンペン（一打）		三〇、〇〇〇方 七〇、〇〇〇迄
ウヰスキー		一一、〇〇〇 二五、〇〇〇
ブランデー		一〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇
リキュール		一三、〇〇〇 二〇、〇〇〇
白葡萄		一三、〇〇〇 二〇、〇〇〇
生葡萄		一四、〇〇〇 三五、〇〇〇
わし印ミタル	四打箱	二三、三〇〇

●醬油（信濃町河又出張所）

品目	單位	價格
極上印	九升詰	三、五〇〇
上印	〃	三、二〇〇
櫻	〃	二、九〇〇
龍	〃	二、七〇〇
編	〃	二、五〇〇
壽	〃	二、三〇〇
菊	〃	二、一〇〇
獅口	〃	二、二〇〇
仝	〃	二、九〇〇
仝竹	〃	二、七〇〇
上實	正二斗詰	三、三〇〇
櫻	〃	五、五〇〇
龍	〃	五、〇〇〇
編	〃	四、七〇〇
編	〃	七、〇〇〇
壽	正三斗五升詰	六、七〇〇
菊	〃	六、三〇〇

●味噌

品目	單位	價格
白	廿貫入	八、二〇〇
赤	仝上	七、八〇〇

●洋釘類（三重洋行支店）

品目	單位	價格
四分ノ三	（壹百斤）	一一、五〇〇
一インチ		一一、五〇〇
一インチ四分一		一〇、〇〇〇
一インチ牛		九、二〇〇
一インチ七五		九、九〇〇
二インチ		八、六〇〇
二インチ牛		九、五〇〇
三インチ		八、五〇〇
三インチ牛		八、四〇〇
四インチ		八、六〇〇
四インチ牛		八、四〇〇
五インチ		八、九〇〇
六インチ		八、五〇〇
七インチ		八、九〇〇

●十丹引板類

品目	單位	價格
平板 廿八番	壹板	一、九九〇
廿六番		一、三一〇
廿四番		一、四一〇
廿二番		一、七六〇
十八番		一、三二〇
十六番		一、七四〇
十四番		二、五二〇
波板六尺		三、五五〇
仝 八尺		四、九〇〇
仝 廿六番六尺		六、九〇〇
仝 八尺		一、八五〇
廿八番 七尺		一、九六〇
仝 八尺		一、〇五〇
仝 廿六番六尺		一、二〇〇
仝 七尺		一、三二〇
仝 八尺		一、〇五〇
廿四番 六尺		一、四二〇
仝 七尺		一、三五〇
仝 八尺		一、六〇〇

●鐵板類

品目	單位	價格
十二枚モノ	一枚	七、〇〇〇
十一枚モノ	仝	七、五〇〇
十枚モノ	仝	八、〇〇〇
厚モノ	百斤	七、四〇〇 七、六〇〇

▼奉天物價▲（小賣相場）

品目	單位	價格
澤龜	一樽	金票二七、五〇〇 支那票
蜂印葡萄酒	一箱	二、〇〇〇
龜甲萬醬油	一樽	四、五〇〇
龜甲醬油	一號全	四、〇〇〇
仝上	二號全	三、六〇〇
仝 京澤庵	入仝	九、五〇〇
奈良漬	仝	六、五〇〇
うめぼし	仝	六、五〇〇
紅生姜	仝	一、〇〇〇
花玉斗	入升入	一、二〇〇
白櫻井	十八貫入	一四、〇〇〇
赤味噌	十九貫入	金八、八〇〇
金山寺	七貫入	三、五〇〇
椎茸	十貫目	奉銀三、〇〇〇
仝上	仝	三、〇〇〇
淺草海苔	十枚	七〇〇
鰹節（土佐）	十貫	一、〇〇〇
仝（薩摩）	仝	八、五〇〇
干瓢	十貫	八、〇〇〇
片栗粉	仝	二、〇〇〇
白玉粉	仝	三、二〇〇
晒餡	貫	三、二〇〇

●穀物（毎斗）

品目	單位	價格
高粱	二百個入	六、〇〇〇
燒麩	千個	一、五〇〇
凍豆腐	十貫	一〇、〇〇〇
山出しこんぶ	十貫	九、〇〇〇
山シ利尻こんぶ	十貫	二〇、〇〇〇
白髪昆布	十貫	三〇、〇〇〇
門若芽	十個入	二五、〇〇〇
寒天	千斤	二〇、〇〇〇
片手子煙	仝	三、〇〇〇
柳子煙	一斤	四、〇〇〇
大麻	仝	三、〇〇〇
胡麻	仝	二、〇〇〇
白糖	一兩	一、〇〇〇
石油	一斤	三、〇〇〇
醤油エキス	一罐	三、〇〇〇
朝日ビール	一箱	一〇、五〇〇
豆油	一斤	四、〇〇〇
豆餅	一塊	一、〇〇〇
粳米	一斗	一、〇〇〇
小米	仝	一、五〇〇
高粱	仝	三、〇〇〇
小麥	仝	一、二〇〇
大麥	仝	一、三〇〇
小豆	仝	一、〇〇〇
菉豆	仝	一、二〇〇
黄豆	仝	一、〇〇〇
牛木白米	仝	一、二〇〇
日本野米	一俵	七、〇〇〇
元豆	吊	六、二〇〇
紅根豆		三、二〇〇
小豆		五、一〇〇
吉豆		六、二〇〇
台麻		六、一〇〇
芝麻		九、〇〇〇
谷子		二、八〇〇
小米		六、一〇〇
小麥		八、二〇〇
球米		四、〇〇〇
粳米		二、一八〇

●銀市（十月六日）

品目	價格
銀數	十吊〇三成
現銀元	六吊百四十文
票銀行	九吊八百二十文
現銀毎加色	一百二十文
鈔票	賣十一元六毛
帖	買十一元二毛
英洋	八元五毛
人洋	十三元
龍洋	十八元五毛
日本手票	十七元
毎十圓ニ付	六吊四百文
日本金票	買七元、賣七元五毛
軍票	買十一元八毛、賣十二元三毛

▼鐵嶺物價▲

●穀類

品目	單位	價格
白米防長 一等	一石	三三、〇〇〇
仝 二等	仝	三二、〇〇〇
朝鮮 石 一等	仝	三〇、五〇〇
仝 二等	仝	二九、〇〇〇
仝 三等	仝	二七、〇〇〇
仝	仝	二六、〇〇〇
元豆	仝	二三、〇〇〇
黒豆	仝	二三、〇〇〇
小豆	仝	一三、一〇〇
高粱	一担	三、八〇〇
包米	仝	三、三〇〇
紅小豆	仝	三、五〇〇
白小豆	仝	三、〇〇〇
黄大豆	仝	二、七〇〇
青大豆	仝	三、〇〇〇
豆粕	一斤	一、四〇〇
小豆粕	百斤	二、八〇〇

●味噌

品目	單位	價格
白味噌	十八貫入十樽	三七、〇〇〇
赤仝	仝	二七、〇〇〇
金山寺	五貫入全	四〇、〇〇〇

●漬物

品目	單位	價格
奈良漬	八貫入十樽	二四、〇〇〇
大根味噌漬	三貫入全	九、〇〇〇
東京澤庵	十二貫入全	二〇、〇〇〇
巻梅干	二百入全	一〇、〇〇〇
赤梅干	十二貫入全	二七、〇〇〇
紅生姜	仝	四、五〇〇
花辣韮	壜詰	六、〇〇〇
白辣韮	一四打入	七、五〇〇
保萬齢漬	一斤入十四打	九、〇〇〇
仝 唐辛子	牛斤入十四打	三、〇〇〇
時雨煮	一斤入四打	三、〇〇〇

●醬油

品目	單位	價格
國運	九升入十樽	二七、〇〇〇
萬歳	仝	二五、〇〇〇
平和	仝	三三、〇〇〇
來福	仝	二九、〇〇〇
仝	仝	二五、〇〇〇
龍甲印	仝	二四、〇〇〇
山サ印	一斗入	二三、〇〇〇
菊香印	仝	四、二〇〇
上一玉印	仝	四、〇〇〇
東一印	仝	三、二〇〇
甲子印	仝	三、〇〇〇

●酢

品目	單位	價格
魁印	三斗五升入	六、七〇〇
仝	一斗入	二、五〇〇
白瀞印	四斗入	六、二〇〇

●清酒

品目	單位	價格
百合正宗	四斗三升	七〇、〇〇〇
澤鶴正宗	四斗五升	七二、〇〇〇
菊正宗	三斗九升	七九、〇〇〇
白鶴	仝	七四、〇〇〇

●麥酒及洋酒

品目	單位	價格
旭ビール	四打一箱	一一、八〇〇
スペシャル	仝	一四、〇〇〇
札幌ビール	仝	一一、五〇〇
黒ビール	仝	三、〇〇〇
キリンビール	仝	三、五〇〇
スナピン	仝	二、五〇〇
蜂印香竄葡萄酒	一打入	二、〇〇〇
白葡萄酒	仝	一九、五〇〇
牛印葡萄酒	仝	一八、五〇〇

●飲料水

品目	單位	價格
孔雀印平野水	四打入	五、八〇〇
金引炭酸水	仝	五、八〇〇
シャンペンサイダー	仝	六、五〇〇
サイダー	仝	六、五〇〇
三ツ矢印サイダー	仝	六、五〇〇
イダー	仝	六、五〇〇
ジンジャー	仝	六、五〇〇

●罐詰類

品目	單位	價格
入鮭ボイルド	四打入	一七、五〇〇
サケ	仝	一八、〇〇〇
松茸	仝	九、〇〇〇
筍味附	仝	九、五〇〇
福神漬	仝	七、〇〇〇
多味豆	仝	六、〇〇〇
アナゴ蒲燒	八打入	一五、〇〇〇
鯛味噌	四打入	一五、〇〇〇
海苔佃煮	十打入	一〇、〇〇〇
カレー粉	四打入	一四、〇〇〇
鷲印ミルク	四打	一四、〇〇〇

●乾物

品目	單位	價格
淺草海苔	十帖	一、〇〇〇
椎茸	十貫目	一七、五〇〇
干瓢	仝	一八、〇〇〇
こんぶ上		一五、〇〇〇

●茶

品目	單位	價格
正喜撰特別上	一斤入	五、〇〇〇
仝	四牛斤	二、六〇〇
入川柳印	牛斤入	一、七〇〇

●洋麵

品目	單位	價格
寶船印	一袋ニ付	二、三五〇
寶印	仝	二、三五〇
東郷印	仝	二、三四〇
菊水印	仝	二、三四〇
惠比壽印	仝	二、三四〇
旗印	仝	二、三四〇

●勞働者賃銀一般

品目	日本人	支那人
一日勞銀	一圓	一圓
鍛冶職	二、五〇〇	八〇〇

▼長春物價▲

品目	單位	價格
入豆	一石	三、一〇〇
小麥	仝	三、〇〇〇
豆粕	卅斤物	一、〇七〇
硬米	一石	八、〇〇〇
饅頭粟	百斤	六、〇〇〇
高粱	一石	三、三〇〇
豆油	仝	三、〇〇〇
黒砂糖	仝	三、〇〇〇
白砂糖上	仝	三、〇〇〇
米		二、〇〇〇
酒 浮白菊		三、〇〇〇
味噌 來福	十八貫	一〇、〇〇〇
醬油 龜甲萬		五、〇〇〇
石油 三星印	一箱	一〇、五〇〇
蠟燭	一箱	四、五〇〇
石炭	一噸	五、〇〇〇
燐寸	一箱	三、〇〇〇
綿布 白	一匹	二、〇〇〇
白麵（ハルビン製一袋百四十五斤入）		一、四〇〇
仝（米國製一袋四十斤入）		三、〇〇〇
小豆	一石	七、五〇〇
麻	百斤	三、〇〇〇
粟	一石	八、〇〇〇
綿	百斤	三、〇〇〇
仝上	仝	一〇、〇〇〇
毛頭紙	一刀	八、五〇〇
葉烟草	百斤	一二、〇〇〇
仝上	仝	八、〇〇〇
敷嶋	廿入	一、一八〇（洋）
大和	仝	一、六〇
朝日	仝	五〇〇
ヒーコーヒー	一箱	二、〇〇〇（軍票）
ビール	一箱	二〇、〇〇〇
軍票	一圓 官帖	二吊九百三十文
金票	一圓	二吊八百文
軍票	一圓 洋銀	一圓十二錢
金票	仝	一圓〇七錢

職種	價格	
石工	三、二〇〇	二、八〇〇
左官	三、〇〇〇	二、八〇〇
入工	二、五〇〇	一、八〇〇
木挽	二、五〇〇	一、九〇〇
煉瓦職	二、二〇〇	一、二〇〇
冶職	四、〇〇〇	一、八〇〇
指物職	二、五〇〇	一、八〇〇
桶職	二、〇〇〇	一、二〇〇
ペンキ職	一、五〇〇	一、七〇〇
武カ職	三、〇〇〇	一、二〇〇
土工夫	一、〇〇〇	一、三〇〇
紙帖職	一、五〇〇	一、七〇〇